天気予報のポイント

▽ 雨量の目安

５～１０mm/ｈ → 家の中に居ても雨の音がよく聞こえる（木造住宅を想定）。

１０～２０mm/ｈ → 天気予報では「**やや強い雨**」という表現。

雨の音で話し声がよく聞こえなくなる。
地面からの跳ね返りで足元が濡れる。

～この程度の雨でも長く続くときは注意が必要～

絵：気象庁より

２０～３０mm/ｈ → 天気予報では「**強い雨**」という表現。

どしゃ降り。傘を差していても濡れる。
車のワイパーを速くしても見づらい。

～側溝や下水、小川が溢れ、小規模のがけ崩れが始まる～

＜大雨注意報級＞

絵：気象庁より

３０～５０mm/ｈ → 天気予報では「**激しい雨**」という表現。

バケツをひっくり返したような雨。
道路が川のようになる。

～山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、
危険地帯では避難の準備が必要～

＜大雨注意報～大雨警報級＞

絵：気象庁より

５０～８０mm/ｈ → 天気予報では「**非常に激しい雨**」という表現。

滝のような雨。傘は全く役に立たなくなる。
水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪い。
車の運転は危険。

～土石流が起こりやすい　多くの災害が発生する～

絵：気象庁より

８０mm/ｈ以上 → 天気予報では「**猛烈な雨**」という表現。

息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

～大規模な災害の発生する恐れが強く厳重な警戒が必要～

※気象庁のウェブページを参考に作成

コラム　:「予報用語」　「**強い雨**」「**非常に激しい雨**」などの言葉は、テレビやラジオを含めて、どのチャンネルの、どの天気予報でも**共通のキーワード**！

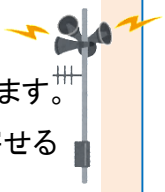
避難時のポイント

◆ 避難のタイミングを決めておく

例えば・・・

・「高齢者等避難」が出たら
・「避難指示」が出たら
　→ 行政からの情報をもとに決める

・「気象情報を確認して自主的」に
　→ 自分で集めた情報をもとに決める



※「避難」とは、「難」を「避」けて、自分の身の安全を確保することです。
避難先は、市が開設する避難場所に限らず、自宅の最上階、安全な親戚や知人の家なども含まれます。
親戚や知人の家などへ避難する方が安全な場合は、災害の危険が過ぎ去るまで、一時的に身を寄せることなどを想定し、日頃から話し合っておくことが大切です。

◆ 避難方法を決めるにあたっての注意点

① 外に出て避難先に向かうことができる場合

→ 安全な親戚・知人宅や避難場所等へ早めに避難（水平避難）

②外に出ることが危険な場合（雨風が強い時等）

→建物内で一番高く、がけから離れた場所に避難（垂直避難）

※ 雨風の強い時や暗くなってからの水平避難には危険が伴います。今後強まるのか弱まるのか、ピークの時間帯はいつなのか、行政からの情報が出ているかなどの状況に応じ、明るいうちの早めの水平避難や垂直避難を実施しましょう。

◆ 避難するときは服装に注意

・長靴はNG
→ 長靴の中に水が入ると重くなって歩けなくなる。
　また、替えの靴下も持っておくと、避難先で履き替えることができる。

・長い棒や杖を持つ
→ 冠水している場所を歩くと、地面が見えないため、段差や、フタの無い側溝、フタの開いたマンホールが見えない。棒や杖を使って確認しながら安全に避難する。
※トレッキング用の杖やスキーのストック、閉じた傘も有効

（資料提供　NPO法人土砂災害防止広報センター）

・カッパを着る
→ 手を空けるために、雨除けのための傘は持たない。

長靴NG

スニーカー

長めの木の棒

・トレッキング用
・ストック

傘NG
（杖の代わりはOK）

カッパ

※ 安全のため、避難は家族やご近所さんと一緒に！